

# 航空従事者学科試験問題

P41

資格	操縦教育証明(飛)(回)(滑)(船)	題数及び時間	40題 2時間
科目	操縦教育一般〔科目コード：15〕	記号	G1CC1522B0

◎ 注 意 (1) 「航空従事者学科試験答案用紙」(マークシート)の所定の欄に、「受験番号」、「受験番号のマーク」、「科目」、「科目コード」、「科目コードのマーク」、「資格」、「種類」、「氏名」及び「生年月日」を記入すること。

「受験番号」、「受験番号のマーク」、「科目コード」及び「科目コードのマーク」の何れかに誤りがあると、コンピュータによる採点処理が不可能となるので当該科目は不合格となります。

(2) 解答は「航空従事者学科試験答案用紙」(マークシート)に記入すること。

◎ 配 点 1問 1点

◎ 判定基準 7割以上正解した者を合格とする。

問 1 操縦教員は練習生の学習環境を整備し、学習意欲を高めるための欲求を満足させる配慮が必要である。この学習意欲を高めるための欲求で (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (5) の中から選べ。

- (a) 安全の欲求
- (b) 所属の欲求
- (c) 生理的欲求
- (d) 承認 (尊重) の欲求

(1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし

問 2 練習生と堅固で健全かつ有意義な関係を築けるかは、操縦教員が人間の行動と欲求に関してどれほど知識を有しているかに関わるとされ、また、学習過程を妨げる要因を知ることにも有益であるとされている。この学習過程を妨げる要因の防御機能の現象とその説明として (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (5) の中から選べ。

- (a) 抑圧 (Repression) : 抑圧には一時的に忘れていたものから、不安の引き金となる事柄を心の奥深くに埋めてしまう記憶喪失まで、と幅がある。
- (b) 否認 (Denial) : ストレスのかかる記憶が呼び覚まされるのを禁止したり、過少評価 (縮小視) したりする。
- (c) 補償 (Compensation) : 不安をあおる事実を認める代わりに、本心とは反対の行動をとることである。
- (d) 空想 (Fantasy) : 練習生は想像力を働かせて現実を離れ架空の世界、すべてうまくいく世界、喜びの世界へと逃げ込む。

(1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし

問 3 操縦教員が自分よりも年上の練習生を教える際に取りべき行動として (a) ~ (d) のうち正しいものはいくつあるか。(1) ~ (5) の中から選べ。

- (a) 最終目標を達成するために各単元における目標を明確に設定した訓練シラバスを用意する。
- (b) 新しい知識を活かすために今までの知識とうまく融合するように配慮する。
- (c) 成人練習生が使いやすい本、プログラムやコンピュータを用いる。
- (d) 口元まで食事を運んであげるような、手取り足取りの丁寧な教え方をする。

(1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし

問 4 「学習」の定義について (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (5) の中から選べ。

- (a) 学習とは経験が行動に変化をもたらすこと。行動は身体的で誰の目にも明らかな場合と知性や態度の変化の場合がある。
- (b) 学習とは経験と練習が行動に変化をもたらすこと。
- (c) 学習とは経験と直接影響を受けた行動を通して認識に一時的な変化をもたらすこと。
- (d) 学習とは人が行動を起こす理由であり、目標 (ゴール) の中心に位置するもので、努力の対象となるもののこと。

(1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし

問 5 操縦教員は人が学ぶ過程がどのようなものかを知っておく必要があり、学習理論は、人はどのように技術、知識、態度を獲得していくのかを説明するものである。現在の学習理論は、行動主義と認知論のふたつの概念から発展してきた。この二つの概念のうち認知論に関する説明 (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。

(1) ~ (5) の中から選べ。

- (a) 認知論は心のなかで何が起きているかに着目する理論である。
- (b) 認知論における認識とは思考や学習の過程であり、知ること、知覚すること、問題解決、意思決定、気づき、そしてそれらと関連した知的活動を意味する。
- (c) 認知論では、学習とは単に行動の変化にとどまらず、考え方、理解の仕方、感じ方までをも変化させるものである。
- (d) 認知論は心理学のアプローチの1つで、「人間の行動は環境によって多かれ少なかれ条件付けされ、過去に受けた褒美と罰則によって人間の行動は予見が可能である。」という考えのものである。

(1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし

問 6 操縦教育において操縦教員が手本を見せること、説明をすること、練習を指示すること、それらをとおして経験してきたことの関係性を理解させることで、練習生の洞察力の発達を促し、学習効率があがるとされている。洞察力について誤りはどれか。

- (1) 洞察力とは知覚した個々のものをまとめて、そこから意味を引き出すことである。
- (2) 洞察力は経験が長くなれば自然とついてくるもので、教育の有無とは必ずしも関係がない。
- (3) 洞察力とは関連性のある知覚事項を頭の中で関連づけたりグループ化したりすることである。
- (4) 洞察力とは五感からの刺激を感じ取り、その感覚に意味づけを行い、その感覚に基づき行動を起こすことである。

問 7 Fitts & Posner によって提案されたモデルによると、練習生は、いくつかの段階を経て初心者から熟達者へ成長するといわれている。その段階のうち認知段階 (Cognitive Stage) と自動化段階 (Automatic Response Stage) について (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (5) の中から選べ。

- (a) 考えなくても手順を追えるようになると、さほど意識を必要としなくなるために他のことを同時にこなす余裕ができる。
- (b) 練習生にタスクを行わせるには順を追って進む分かりやすいサンプルを使用するのが最善である。
- (c) やりかたの手本を示しても練習生のスキルには結びつかないことがある。練習で視覚や伝わってくる感触から筋肉をどう使えばいいかを学ぶ。
- (d) スキルが身についてくると言葉での説明が以前より分かりやすくなる。

(1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし

- 問 8 動機に関して説明したもので誤りはどれか。  
 (1) 人が行動を起こす理由である。  
 (2) ネガティブなものとポジティブなものがある。  
 (3) ポジティブな動機とは、報酬（褒美や見返り）が約束され、収入が増える、自己概念の満足、世間に認められるなどがある。  
 (4) 叱責や脅威はネガティブな動機になるとされており、いかなる練習生にも必要のないものである。
- 問 9 学習の高原について (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (5) の中から選べ。  
 (a) 一定のペースで向上し頂上にたどり着く現象である。  
 (b) 訓練を続けても乗り越えられないものである。  
 (c) フラストレーションの原因になりやすい。  
 (d) 動機の低下の原因になりやすい。  
 (1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし
- 問 10 「学習の転移」について正しいものはどれか。  
 (1) 練習生が学習をするときに、以前に学んだことが役に立つことが多い。たまに前に学んだことが現在学んでいるタスクを妨害することがある。  
 (2) 以前の学習が現行の学習に役立つ場合は、負の転移が行われたといい、現行の学習を阻害するものは、正の転移が行われるという。  
 (3) 全ての学習に、ある程度の転移が存在する。新規の学習は以前に学んだ経験に基づかない方が効果的である。人は新しいことを最新の知識で解釈する。  
 (4) 同じような能力の練習生であれば成績に差が出ることはなく、学習の転移が指導に役立つことはない。
- 問 11 エラー (Errors) を減少させる方法 (a) ~ (e) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (5) の中から選べ。  
 (a) エラーを減少させる方法は学習と練習である。  
 (b) エラーは自分のペースで慎重に行うことで少なくすることができる。  
 (c) エラーが起こりやすい状況にいることを強く認識することである。  
 (d) 見えるところにリマインダーがあるとエラーを減らすことができる。  
 (e) 標準化された手順を使うことでエラーの発生を少なくすることができる。  
 (1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) 5
- 問 12 練習生と効果的なコミュニケーションを行う場合に操縦教員が考慮すべき事項 (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (5) の中から選べ。  
 (a) 似たような経験（身体的、精神的、感情的）を有すること。  
 (b) 操縦教員の意図を正確に表現するため、言葉とそれが意味するものが曖昧にならないようにすること。  
 (c) 具体的な表現を用いて、抽象表現の使いすぎに注意すること。  
 (d) 生理的な干渉、環境的な干渉、精神的な干渉の影響に考慮すること。  
 (1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし

問 13 教育手法の「講義形式」の長所について (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (5) の中から選べ。

- (a) 少人数を教育するのに適している。
- (b) 多くの内容を比較的短い時間で提示できる。
- (c) 練習生の理解度を推測するのが容易である。
- (d) 練習生の成長を正確に知るのに適している。

(1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし

問 14 評価に関する記述について (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (5) の中から選べ。

- (a) オーセンティック評価は、機械的学習と理解だけでなく、応用レベルや相互関係づけのレベルも評価の対象とする。
- (b) オーセンティック評価は、実践的なタスクを行わせ、スキルや能力の応用力を評価する。
- (c) 筆記試験による評価は、正しい答えはひとつというタイプの評価である。
- (d) 筆記試験による評価は、練習生が必要な知識をどれほど有しているかを判断するには有効ではない。

(1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし

問 15 操縦教員が練習生を効果的に評価を行う方法で誤りはどれか。

- (1) 評価は客観的でなければならず、練習生のパフォーマンスに焦点を当てたものでなければならない。
- (2) 評価は公平で、権威があり、確信に満ちて、誠実を感じるものでなければならない。
- (3) 評価は弱点ばかりでなく長所も対象に加える。常に長所に重点をおいて評価することが効果的である。
- (4) 失敗や弱点を発見した場合には、教員は前向きな指導でそれらを改善するようもっていく。

問 16 練習生の成長を評価する方法を決めるときのステップ (a) ~ (d) を正しい順に並べたものはどれか。(1) ~ (4) の中から選べ。

- (a) 学習目標のレベルを決定する。
- (b) 望まれる行動のリストを作成する。
- (c) 目標の基準を設定する。
- (d) 基準にそった試験項目を作る。

(1) (a) → (c) → (b) → (d)  
(2) (c) → (a) → (b) → (d)  
(3) (a) → (b) → (c) → (d)  
(4) (d) → (c) → (b) → (a)

問 17 操縦教員としてあるべき姿で誤りはどれか。

- (1) 容姿は大切であり清潔であること。
- (2) 率直で正直であるべきである。
- (3) 落ち着いた物腰、思慮深さ、自制の効いた態度である。
- (4) 常に厳しく威厳を保つ態度をとるべきである。

問 18 飛行訓練に共通する学習障害について (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (5) の中から選べ。

- (a) 練習生の身体的不快、病気、疲労、脱水
- (b) 練習生の心配事や興味の喪失
- (c) 練習生の焦りや苛立ち
- (d) 練習生への不十分な教育による無関心

(1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし

問 19 口頭評価において、教員による適切な質問によりもたらされる結果で誤りはどれか。

- (1) 練習生が学んだ事をどれほど覚えているかを確認できる。
- (2) 練習生の興味をつなぎとめ、思考を活性化できる。
- (3) 練習生の学習に対する怠慢度を確認できる。
- (4) 訓練の重要ポイントを強調できる。

問 20 訓練シラバスの構成又は使い方について誤りはどれか。

- (1) 訓練シラバスは効果的な訓練を行うために適切な学習ブロックの組み立てにより構成されている。
- (2) 訓練シラバスは訓練コースの目標達成のためにロードマップとしてデザインされている。
- (3) 訓練シラバスは阻害要因を排除しながら確実に実施し、柔軟に変更することは好ましくない。
- (4) 訓練シラバスは訓練コースの要約らしく簡潔で、かつ必要な情報をすべて備えておくこと。各レッスンの推奨訓練時間や必要最小訓練時間を表にしたシラバスも存在する。

問 21 飛行訓練のレッスン・プランの使い方について (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (5) の中から選べ。

- (a) レッスン・プランをガイドとして利用する。
- (b) 教育を成功させる方法は適切なレッスン・プランを持っていることである。
- (c) レッスン・プランは練習生の背景、飛行経験や能力に相応しいものであること。
- (d) 状況によっては飛行中にレッスン・プランを修正することも必要である。

(1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし

問 22 航空におけるリスクマネジメントについて誤りはどれか。

- (1) リスクマネジメントの主たる目標は事故防止であり、安全を脅かす危険因子を特定し、評価し、排除もしくは容認できるレベルにまで抑えることである。
- (2) リスクマネジメントは、起きてしまった事故についての対処プロセスである。
- (3) リスクマネジメントは、リスクに対する考え方を公式化したもので、リスクの管理に掛かるコストと、リスクを放置した場合の利益とを比較する論理的なプロセスのことである。
- (4) リスクマネジメントは、系統立てて危険因子を特定し、リスクの度合いを評価し、最善の行動を決定することである。

問23 飛行中の状況認識の維持を妨げるものとされている「自己満足」の事例（a）～（d）のうち、正しいものはいくつあるか。（1）～（5）の中から選べ。

- （a）自動装置の信頼度が非常に高い場合
- （b）乗り慣れた航空機で飛行する場合
- （c）冗長性と信頼性が高い先進的なアビオニクスを搭載している場合
- （d）初めて行うオペレーションの場合

（1） 1      （2） 2      （3） 3      （4） 4      （5） なし

問24 航空従事者技能証明を有さない者が航空法第22条（航空従事者技能証明）及び同施行規則第42条（技能証明の申請）第1項により航空従事者技能証明申請書を提出した場合、同施行規則別表第二に掲げる飛行経歴その他の経歴を有する書類を国土交通大臣に提出しなければならない定めで、正しいものはどれか。

- （1）学科試験の全科目に合格した航空従事者技能証明申請書の提出日（官報公示による締切日）から2年以内に提出すること。
- （2）学科試験の受験申請を行うときに同時に提出すること。
- （3）実地試験受験日に同時に提出すること。
- （4）学科試験の全科目について合格の通知があった日から2年以内に提出すること。

問25 航空法第29条で定める国土交通大臣が技能証明を行うための試験について

（a）～（d）のうち、正しいものはいくつあるか。（1）～（5）の中から選べ。

- （a）試験は、口述試験と実地試験とする。
- （b）試験は、学科試験と実技試験とする。
- （c）学科試験に合格した者でなければ、実地試験を受けることができない。
- （d）外国政府の授与した航空業務の技能に係る資格を有する者には、試験は全部免除される。

（1） 1      （2） 2      （3） 3      （4） 4      （5） なし

問26 操縦教育を行う操縦者が、一定の期間内において有しなければならない一定の飛行経歴で正しいものはどれか。

- （1）操縦の教育を行う日からさかのぼって1年までの間に6時間以上の操縦の教育を行った飛行経歴（滑空機にあっては2時間以上及び6回以上の操縦の教育を行った滑空の飛行経歴）を有しなければならない。
- （2）操縦の教育を行う日からさかのぼって1年までの間に10時間以上の操縦の教育を行った飛行経歴（滑空機にあっては2時間以上及び10回以上の操縦の教育を行った滑空の飛行経歴）を有しなければならない。
- （3）操縦の教育を行う日からさかのぼって1年までの間に4時間以上の操縦の教育を行った飛行経歴（滑空機にあっては1時間以上及び10回以上の操縦の教育を行った滑空の飛行経歴）を有しなければならない。
- （4）操縦の教育を行う日からさかのぼって1年までの間に8時間以上の操縦の教育を行った飛行経歴（滑空機にあっては1時間以上及び4回以上の操縦の教育を行った滑空の飛行経歴）を有しなければならない。

- 問27 航空法第92条で定める、国土交通大臣の許可を受けた場合を除き、航空交通管制区又は航空交通管制圏において行なってはならない飛行で誤りはどれか。
- (1) 操縦技能証明を受けていない者が航空機に乗り組んで操縦の練習をする飛行
  - (2) 操縦技能証明を有する者が当該技能証明について限定された範囲の航空機以外の航空機に乗り組んで操縦の練習をする飛行
  - (3) 操縦技能証明を有する者が航空機に乗り組んで特定操縦技能の練習をする飛行
  - (4) 航空機の姿勢をひんぱんに変更する飛行その他の航空交通の安全を阻害するおそれのある飛行で国土交通省令で定めるもの

- 問28 実技試験に使用する航空機の要件について(a)～(d)のうち、正しいものはいくつあるか。(1)～(5)の中から選べ。

- (a) 現に有効な耐空証明を有すること。
- (b) 試験科目に対応できる装置等を有すること。
- (c) 航空交通管制機関と連絡できる無線電話を有すること。ただし、上級滑空機の場合を除く。
- (d) 模擬計器飛行を行う場合は、完全な複式操縦装置を有すること。

- (1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし

- 問29 実技試験において、実地試験を中止する場合について(a)～(d)のうち、正しいものはいくつあるか。(1)～(5)の中から選べ。

- (a) 科目が判定基準に達しないときは、いかなる場合であっても中止する。
- (b) 航空法等に違反する行為があったときは、その状況を勘案し中止する場合がある。
- (c) 危険な操作を行ったときは、いかなる場合であっても中止する。
- (d) 不正な行為を行ったときは、いかなる場合であっても中止する。

- (1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし

- 問30 実技試験において、安全確保上の責務について(a)～(d)のうち、正しいものはいくつあるか。(1)～(5)の中から選べ。

- (a) 1人で操縦できる航空機にあつては、立会教官が機長として試験中の安全確保についての第一義的な責任を有する。
- (b) 操縦に2人を要する航空機にあつては、受験者が機長として試験中の安全確保についての第一義的な責任を有する。
- (c) 1人で操縦できる航空機にあつては、教官は受験者の操縦を常に監視し、安全上必要な場合には、試験中であっても適切な指導・監督を適宜実施する。ただし、搭乗できる人員が2名以下の航空機にあつては、地上において可能な範囲で監視を行い、安全上必要な場合には、試験中であっても適切な指導・監督を適宜実施する。
- (d) 操縦に2人を要する航空機にあつては、教官は受験者の操縦を常に監視し、安全上必要な場合には、試験中であっても適切な指導・監督を適宜実施する。ただし、試験中の機長としての第一義的な責任は受験者が有する。

- (1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし



問31 航空法第70条（アルコール又は薬物）に関連し、航空機乗組員がアルコール又は薬物の影響によって正常な運航ができないおそれがある状態の目安について、正しいものはどれか。

- (1) 身体に血液1リットルにつき0.02グラム以上のアルコール濃度を保有している場合
- (2) 身体に血液1リットルにつき0.03グラム以上のアルコール濃度を保有している場合
- (3) 身体に呼気1リットルにつき0.09ミリグラム以上のアルコール濃度を保有している場合
- (4) 身体に呼気1リットルにつき0.15ミリグラム以上のアルコール濃度を保有している場合

問32 低酸素症（ハイポキシア）について、誤りはどれか。

- (1) 大気中に酸素の占める割合は地上からはるか上空に至るまで約21%とほぼ一定であるから飛行高度の増大、つまり大気圧の減少に対応して低酸素症状の傾向は増大する。記憶力、判断力および計算能力等が低下し始め、つづいて頭痛、眠気等が起きる。
- (2) 低酸素症（ハイポキシア）と過呼吸とは初期の兆候がよく似ている。さらに両者は同時に発生することが多い。
- (3) 低酸素症（ハイポキシア）は体内から必要以上に酸素を排出してしまうため、パイロットは頭がふらふらしたり、息苦しくなったり、眠くなったり、激しい耳鳴りや悪寒の症状を起し、そのために身体はさらに低酸素症を増幅させる結果をきたす。環境適応能力と方向感覚の喪失および筋肉けいれんの痛みなどによって、ついにはパイロットのすべての能力が失われ、やがて人事不省となることもある。
- (4) 喫煙や排気ガスに含まれる一酸化炭素の吸引は、血液の酸素運搬能力が既に気圧高度5,000フィート以上における酸素運搬能力と同等な程度にまで減少してしまい、それだけ低酸素症（ハイポキシア）にかかり易くなる。

問33 耳閉塞について、正しいものはどれか。

- (1) 航空機の降下に伴ってキャビン内の気圧は上昇するが、中耳内で膨張した空気は耳管（欧氏管）を押し開いて鼻孔から外気に逃げ出し、中耳内の圧力と外気の圧力が等しくなるような調整機能を人間の体は有している。
- (2) 航空機の上昇中は、耳管（欧氏管）を通じて空気が中耳内に自然には入りにくいことがあるので、パイロットはある時間毎に唾をのみ込んだりあくびをしたりして自分で耳管を開いて中耳内外の気圧を等しくしてやらなければならない。
- (3) 風邪やのどの痛みあるいは鼻アレルギーの状態にあると耳管（欧氏管）の周りが充血して通気が困難になり、その結果中耳と外気の気圧差が増大する。そのため、経口の充血低減薬によって防止するのが望ましい。
- (4) 耳閉塞は激しい痛みと聴力の喪失を伴い、極端な場合は飛行中または着陸後に鼓膜が破れる事もある。

問34 一酸化炭素中毒について (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。  
(1) ~ (5) の中から選べ。

- (a) 一酸化炭素は無色、無味、有臭で排気ガスにも含まれている。
- (b) 一酸化炭素は酸素の約210倍も赤血球中のヘモグロビンと結合しやすいことからごくわずかの量でもある時間吸えば血液の酸素運搬能力を著しく低下させる。
- (c) 排気熱を利用した暖房装置の多くは軽飛行機に用いられているので、ヒーターを使用中に排気の臭いを感じたなら一酸化炭素中毒の疑いを持つ。
- (d) 排気熱を利用した暖房装置の多くは軽飛行機に用いられているので、ヒーターを使用中に頭痛、眠気を感じたなら一酸化炭素中毒の疑いを持つ。

(1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし

問35 飛行中の錯覚について正しいものはどれか。

- (1) 離陸中の急激な加速は、機首下げ姿勢にあるような錯覚を生じやすい。
- (2) 傾いた雲の稜線、不明瞭な水平線、地上灯火のある種の幾何学的な配列などによって、航空機の姿勢が実際の水平線に正しくアラインしていないような錯覚が起こりやすい。
- (3) 通常より狭い幅の滑走路に進入するときは航空機が実際の高さよりも低い高度にあるような錯覚を生じやすい。
- (4) 上り勾配の滑走路または上り勾配の地形のいずれかまたは両方の場合、パイロットは事実上の高さよりも低いところにいるような錯覚を起こす。

問36 TEM (スレット・アンド・エラー・マネージメント) に関する記述 (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (5) の中から選べ。

- (a) スレットは、乗員が適切に対処しなかった場合に乗員のエラーを誘発する可能性がある要因であり、悪天候、複雑な地形、類似コールサインや機器の故障等があげられる。
- (b) エラーは、乗員自身、または組織の意図や期待から逸脱し、安全マージンを減少させ、運航を悪化させる事態が発生する可能性を高める行動、あるいは行動をしないことをいう。
- (c) スレット・マネージメントは、スレットに誘発されて乗員がエラーをしたり、望ましくない航空機の状態になったりする可能性を低減するために対策を講じることである。
- (d) エラー・マネージメントは、乗員のエラーが更なる乗員のエラーや望ましくない航空機の状態に発展しないように、対策を講じることである。

(1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし

問37 飛行中の視覚で誤りはどれか。

- (1) 暗順応性は、機内気圧高度の影響は受けない。
- (2) 暗順応を得るためには真暗闇の中で少なくとも30分を要する。
- (3) 赤色の照明は偏色性が強い。
- (4) 過度の明るさは、げん惑を生じる。

問38 着氷について (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (5) の中から選べ。

- (a) エンジンの気化器への着氷は、外気温度10℃以下の空域において湿度が高いとき、必ずしも雲中でなくても起きることがある。
- (b) 樹氷 (rime ice) は空気の泡を含む氷である。
- (c) 冬季日本海沿岸に寒気が張り出してきて発生する雲は過冷却水滴からなることが多く、-3℃~-10℃くらいの外気温度のときに強い着氷をおこす。
- (d) 翼の前縁半径が大きいほど着氷しやすい。

(1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし

問39 搜索救難を発動する基準の説明 (a) ~ (d) のうち、正しいものはいくつあるか。(1) ~ (5) の中から選べ。

- (a) 不確実の段階：位置通報または運航状態の通報が予定時刻から30分過ぎてもない場合
- (b) 警戒の段階：航空機が着陸許可を受けた後、予定時刻から5分以内に着陸せず当該航空機と連絡がとれなかった場合
- (c) 遭難の段階：第一段通信搜索で当該航空機の情報が明らかでない場合
- (d) 遭難の段階：航空機の航行性能が悪化した但不時着のおそれがある程ではない旨の連絡があった場合

(1) 1      (2) 2      (3) 3      (4) 4      (5) なし

問40 管制上の優先的取扱いが講じられる場合で、誤りはどれか。

- (1) 航空機が「MAYDAY」または「PAN-PAN」を通報した場合
- (2) 航空機もしくは運航者が不法妨害を受けている旨を通報した場合
- (3) 航空機が火山灰雲に入った旨通報した場合
- (4) 急病人もしくは重病人または移植臓器を搬送している航空機または臓器の移植を目的として運航している航空機の場合